



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 大久保東公民館は、さいたま市の西部に位置し、都市化の進んだ住宅地と荒川流域の自然環境が混在しており、歴史的資産も豊富である。また、埼玉大学や看護師養成専門学校に通う学生や生徒が多く、若い世代も目立つ。特に埼玉大学へ通う留学生をはじめ、就労や技能実習生等、**地域の在住外国人は800人を超え、年々増加傾向**にある。
- 昔から水害リスクが高く、地域の防災意識も高い。**災害時に誰一人取り残さないつながりづくりが喫緊の課題**である。地震への対策を含め、命を守るための行動や日常の備え等について、具体的な学びを通して地域や家庭の防災力をUPさせることが求められている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

- 多文化共生の取組
外国人市民が「日本語教室はありますか？」と度々訪れるため、外国人市民に寄り添う日本語ボランティア養成講座を行った。
 - ①入門講座（3回）は、日本語ボランティアに興味のある方を対象に行った。その後サークルが発足し、現在は登録者30名中20名のボランティアが日本語支援に携わっている。
 - ②中級講座（3回）は、日本語ボランティアのブラッシュアップ講座として行った。3回目は、外国人市民との藍染め体験も行った。「こんにちは。私たちはともだちです！元気でしたか。」で毎回つながる日本語教室は、**様々な人が相互に学び合う場**となった。
 - ③地域にはムスリムの方も多く、近隣に埼玉モスクがあることから「イスラム文化～地域から共生を考える～」異文化理解講座（3回）を行った。イスラムの歴史と文化や世界情勢を正しく知ったり、近隣の埼玉モスクとハラールフード店を見学したりした。
 - 高齢者の居場所づくりや、公民館利用団体の支援
 - ①地域包括支援センターと連携し、相談の場（大久保東サロン）を提供している。
 - ②災害への備えとして「防災サークル」を発足し、啓発活動を実施した。
- いずれも、**活動の主役は地域住民や団体であり、公民館はサポートとしてコミュニケーションと情報交換を大事にし、団体との信頼関係を築くなど裏方**に徹している。



日本語ボランティアサークルの看板 多国籍に対応している



桜区親子防災講座において防災サークルがボランティア参加

3. 取組による成果や効果

- 「日本語ボランティア」のサークル活動は、**地域に住む外国人市民にとって日本語を学び、支えとなる場所**となった。ボランティアからも「人のために何かすることかと思ったが、逆に学ぶことが多く楽しみにもなっている。」等の声が聞かれた。ボランティアも増員し、より多くの外国人市民への支援を行えるようになった。
- 「防災サークル」は、桜区防災講座の支援や、啓発のため写真パネルを製作し、桜区役所及び桜区内公民館で巡回展示を行った。
- 「日本語ボランティア」と「防災サークル」が、公民館作品展示会「ブラボー！マイライフ♪」を通じて、**外国人市民の防災意識の向上と災害時対応・避難等**について意見交換ができ、サークル同士がつながるきっかけとなった。



「ブラボー！マイライフ♪」防災サークルによる展示

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 事業のねらいや目標を数値等で明確にし、振り返りからも学ぶための共有時間を確保している。
- 講座アンケートや講師・事業関係者との打合せ、区や市との連携の中で意見や感想を伺い、次に活かしている。
- 公民館運営協議会で、自治会長・学校長・地域有識者・利用団体等から意見を伺い、課題解決を図っている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- 一人ひとりの学びに寄り添いながら、人と人、人と地域とのつながりを築くこと。
- 学び支え合うコミュニティは地域課題解決と幸せな地域の未来をつくる鍵であり、その原動力は人と場であること。
- 生涯の学びを通し、**地域の若い力や多様性を生かした人のつながり**を大切にしていくこと。
- 職員一丸となって、「日々笑顔あふれる公民館」を目指していくこと。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

- 外国人市民と共に**共生社会を築く学びの場**を提供し、継続していく。
- 地域住民が主体となった「公民館避難所運営委員会」の開催や、中学校と連携した「防災講座」の実施などにより、災害に強いまちづくりを一層推進する。
- 高齢者や若者世代を重点に、幅広い年代に向けた事業を実施することで、地域のあらゆる方々が主役となるような公民館を目指していく。